

fono mm

はじめに

Fono MM は優れたパフォーマンスはもちろん、使いやすくそして何よりも音楽を忠実に再現するために、設計されています。

入力段はMMカートリッジの性能を最大限引き出すために、入力段のフロアーノイズの低減化とリニアリティーが図られており、さらにディスクリート設計となっているほかリニアリティーと低ノイズに優れた LSK389 FET を採用しています。

LSK389は入力抵抗が高いとなっている FET のため、増幅段は抵抗の影響はマイナスとなっておりカートリッジへの影響はありません。

A Muse オペアンプは、RIAA イコライジング用アンプ内で使われています。

ポリプロピレン樹脂製コンデンサーは回路上や RAA イコライジングボード用に採用されています。

バックパネルに置かれたスロットにより、細部に渡って設定することが可能です。

抵抗値の負荷の設定のため、#1-#2 を、コンデンサーの設定のために #3 を、ゲイン設定のために #4 の各スロットを使って細やかな設定が可能です。

スロットは、更に L/R 独立で設定することが出来ます。

結果、FONO MM に出力の非常に低い MC カートリッジを組み合わせることも可能です。

Fono MM の美しいデザインは、その高音質電解コンデンサー同様重要であり TIPSU や Fono MM 同様アルミニウムシャーシを採用することにより一層際立っています。

Fono MM は Fnono MC の兄弟モデルで、筐体や設計は共通となっています。

新製品 Fono MM の基板設計はインテグレートッドアンプ: Aria のフォノアンプを設計した際に開発されたノウハウから生まれたものです。

Fono MM の昇圧段は、MC カートリッジからの微小な信号を 200mV ほどのラインの標準出力まで引き上げる設計となっています。

電源 ON/OFF

FonoMM は、フロントパネルにある ON/OFF のスイッチで電源ON/OFF をします。

電源が入ると Rega のロゴが赤く光ります。

ご注意

FonoMM に電源を入れた後、アンプの電源を入れることをお勧めします。

これは、FonoMM のパワーを入れた際、ポップ音がし、スピーカーを傷める可能性があります。

接続方法

- 入力:input

ターンテーブルからのケーブルとアースをバックパネルの端子に接続します。

- ターンテーブルのアース

アースを別に取りる必要がある場合には、バックパネルにあるアース端子に接続下さい。

- 出力:output

ラインケーブルをアンプの入力端子に接続します。

- 電源の供給

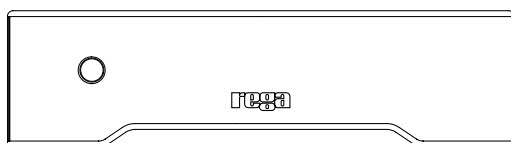
付属の ACアダプターをバックパネルの AC アダプターソケットに取り付けます。

ご注意

Phono入力が搭載されたアンプの場合は、FonoMMは、ライン入力に接続をお願いします。

Phonoに接続しないようにご注意下さい。

front panel controls



rear panel connections

